

西光寺だより

第十号 平成二十三年六月一日発行

六月、梅雨の時期となりました。雨の多いこの月は、くもり空のよう
に気分までじめじめと鬱陶しくなることがあります。

人間の心持ちは、天気にも左右される不安定なところがあるよう
ですね。しかしながら、思い返してみるとおそらくどなたにも子供の頃、
雨を楽しんだ記憶があるのではないのでしょうか。

ぼたぼたと落ちる雨の音に耳をすまし、窓に流れる水滴の粒が重
なりあい流れ落ちる様を楽しんだこと。道を歩くと小さな川を作ったよ
うに水が流れていくこと、道のくぼみに出来た水たまりの中でばし
やばしやと遊んだこと。大人になるにつれ忘れてしまいがちですが、き
つと子供はその時そのときを楽しむことが出来るのでしよう。

全身で遊んだ頃を思い出しながら、紫陽花の喜ぶ姿を眺めつつ雨と
対話してみるのも水無月ならではの過ごし方かもしれません。雨と向
き合う日、そんな一日をつくってみるのはいかがでしょうか。



花ことばは、“高慢”です。梅雨のころ、しめやかな雨に濡れて咲いているこの花に、どうしてこんな花ことばがついていたのか、わたくしにはわかりません。あじさいは、咲きはじめから、満々と咲ききってしまうまでに、少しずつ色を変えていきます。また咲ききった後、花びらを散らしもせず、色を失ってしまうまでじっと何かに耐えているようです。そんな姿に、少女から娘に、娘から女に、女から母に、母から白髪のおばあさんにと、ひとつの時代を生きる女の姿を重ねてみるのです。
（「花ことば物語」（鈴木美智子 カラーブックス 保育社）より）

●今月のことば●

『お日さん、雨さん』

ほこりのついた 芝草を 雨さん洗ってくれました。
洗ってぬれた 芝草を お日さんほしてくれました。
かうして私がおねころんで 空をみるのによいやうに。

（金子みすゞ詩集より）

◆報告◆

五月十四日（土）に西光寺本堂にて役員の方々に集まって頂き、午後七時より総会が開催されました。

皆様に讃仏偈のお勤めをした後、案件として平成二十二年度西光寺講会計報告、そして四月三日に厳修された親鸞聖人七百五十回大遠忌ならびに西光寺第二十世住職継職奉告法要の会計報告を皆様に報告し説明させて頂きました。

皆様にご報告させて頂きたく思います。

合 掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>